
人間不信男とコーヒー

高平しま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人間不信男とコーヒー

【Nコード】

N4267U

【作者名】

高平しま

【あらすじ】

様々な事情を抱えた人々と、風変わりな喫茶の話。オムニバス（予定）

彼女にフラれた。

というか、遊ばれた。

更に言えば、貢がされた。

可愛い系の美人で、すっかり骨抜き。

で、ついでに財布の中身もがつつり抜かれた。

“あなたのこと、大好きよ”

俺の腕の中で言ってた台詞は一部要約されていて、正確には、

“あなたのこと、五番目くらいに大好きよ”

だったのに気付くのに、半年かかった。

あんな純真無垢って言葉がぴったりな顔して、実は貢がせまくりのヤリまくり女だったなんて。

俺の頭の中では今、人間不信論の支持率が急上昇中だ。

とりあえず大学には来てみたものの、授業を受ける気にはならなくて、三号館の手前でUターン。

宛てもなくふらふら歩いていると、普段は入らない路地裏で、一軒の喫茶店を見つけた。

昭和な雰囲気漂う、レトロなたたずまいのその店は、大きく無骨な木の板に、『喫茶ニューヨーク』と黄色いペンキで書かれた看板が掲げられている。

自動ではなさそうなガラスのドアには、営業中の札が掛かっている。

気分的に人が少ない場所にいたいし、あまり流行ってなさそうだし、ちよつと時間潰しに入ってみるか。

そんな軽い気持ちでドアを開ける。

3秒で後悔した。

「いらつしゃいませえー！」

華やかな声と共にやって来たのは、コスプレレベルのボリウムがある、白と黒のメイド服を身にまとったウエイトレス（身長推定185センチ）。

「名様ですかあ？」

「……あの、ここってメイド喫茶？」

「違いますう、このカツコはあたしの趣味なだけでえ。マスターはメイド服着てないですしい」

妙にでかいメイドが、カウンターの奥を指さす。

そこにいたのは、ロングの茶髪にくわえ煙草、酷い隈を目の下に作った、眼光鋭い女性。

……あれ、どう見ても元レディーさだろ。

変な店に来ちゃったな……。帰ろ。

腹の中でそう決めて、店を出ようとした時。

「おい、坂出！」

俺の苗字をフルボリウムで呼ぶ声が、店の奥からした。

「……樋川先輩」

「こつちで一緒に飲もうぜ」

俺を手招きで呼ぶのは、テニスサークル　　という名の飲みサークル　　の先輩である樋川さん。

なかなかの色男で、常に女が絶えない。

正直今はそんな人と一緒に話す気分じゃないが、呼ばれてしまつたら仕方ない。

素直に樋川先輩の正面の席に座る。

「先輩はよくここに？」

「ああ。なんか落ち着くからさ」

「落ち着く……」

先輩の言葉を反芻しながら店内を見回す。

薄暗い店内。茶色を基調としたインテリア。あちこちに置かれた観葉植物。色とりどりのケーキが並ぶショーケース。

寿司屋の湯呑み片手の老人。テーブルに並べたタロットカードに

視線を落としたまま、微動だにしない女性。スケッチブックに何かをひたすら書き込んでいる男性。ゴスロリ風の黒い服を着た小学生。

……落ち……着く？

「あの、アメリカン一つ」

お冷やを持ってきたウェイトレスに注文する。

が、彼女は首を傾げ、何ソレと言わんばかりの表情を浮かべる。

……よくよく見ると、結構可愛いな。

「ここはメニューがないんだよ」

「はあ!？」

「マスターが客に合うコーヒーを煎れてくれるんだ」

マスター、という単語につられ、カウンターの向こうに目を遣る。

元レディースの口から大量の紫煙がのぼるのが見えた。

……マジ？

そうこうしてる間に、緻密な細工の施されたカップに注がれたコーヒーが運ばれてきた。

まずは一口。

……なんだろう、優しい味がする。コーヒーってこんな味するのもあるんだ。

「上手いか？」

「はい」

「マスターが今のお前に必要なのはその味だって思って煎れてんだ。胸に染みるだろ」

「……はい」

不思議な感覚だ。

あれだけささくれ立っていた心がだんだん穏やかになっていく。魔法にでもかかったようだ。

今なら人をまた信じられる気がする。

また恋だつてできる気がする。

「ねえ、先輩。あのウェイトレス、結構可愛いですよね」

「キオちゃん？ そうだな。……あ、でも惚れない方がいいぞ」

「なんでですか？ まさか先輩の彼女とか？」

「っーかオカマだから」

「……………」

やっぱりもうしばらく人間不信は続きそうだ。

(後書き)

次作『欲張り男と札束』(<http://ncode.syosetu.com/n8150u/>)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4267u/>

人間不信男とコーヒー

2011年10月9日08時50分発行